

高校生のみなさんへ…地理夏季巡検で考えたい問い

厳しい暑さが続くなか、参加してくれた高校生のみなさん。ほんとうにありがとう。

巡検中に見たことや聞いたこと、地理部会ホームページの資料を参照して、次の問いに答えてください。テストではありませんから、完璧を求めてはいけませんよ。思考することを楽しんでください！それよりも、バス車中で回りの高校生同士で考えたり、先生に質問したりしてもいいですね。この問いをきっかけにぜひいろいろな人たちと交流してください。

- 1 (浦山ダム参加者) ダム湖である秩父さくら湖の湖面を見たときの印象を答えてください。さらに、そうなっている理由を答えてください。
- 2 (秩父太平洋セメント三輪鉱業所参加者) 武甲山^{ぶこうさん}では古くから石灰石^{さいいくつ}が採掘されてきました。山体がそれまでと比べて大きく変化したのは、1955～73年の高度経済成長期です。どうしてなのでしょう。その理由を高度経済成長期という時代に注目して考えてみましょう。
- 3 (全員) ネットで武甲山を検索すると、「武甲山 かわいそう」、「武甲山 なくなる」などのキーワードが自動で表示されます。…それだけ多くの方がこのキーワードで検索しているんですね。
 - (i) 石灰石の採掘によって武甲山の山体は大きく変化してきました。このことについて、あなたはどのように思いますか。あなたの考えとその理由を答えてください。
 - (ii) 武甲山の石灰石をとり尽すと、武甲山はなくなってしまうのでしょうか。高社研地理部会のホームページにある地質図を見て予想してみましょう。
- 4 (全員) 秩父太平洋セメントは1923年に創業した秩父セメントを源流とする会社で、新しい一万円札の肖像に選ばれた渋沢栄一^{しぶさわえいいち}(1840～1931年)も経営に参加しました。その一方で、深谷市にあった日本煉瓦製造会社の経営に携わっていました。秩父セメント創業から半年後に起こった関東大震災によって日本煉瓦製造会社の工場は大きな被害を受けましたが、その後の煉瓦生産量はピーク時(1911年)を超えることはありませんでした。煉瓦は日本の近代化のシンボルとして明治以降、ビルなどの建物や橋などの構造物などにさかんに利用されてきましたから、復興資材として煉瓦がたくさんつくられてもいいはずですよ。どうしてなのでしょう。
- 5 (全員) セメント工場は、基本的に原料となる石灰石産地につくられるといわれています。それは「原料(石灰石や粘土など)の重さ>製品(セメント)の重さ」だからで、重い原料を遠くまで運ぶよりも、軽い製品を遠くまで運ぶ方がお得なんですよ。さて、秩父太平洋セメント三輪鉱業所^{みのわこうぎょうしょ}と太平洋セメント熊谷工場の直線距離は30kmあります。秩父から離れた熊谷に工場がつくられたのはなぜでしょう。

